

開南大学夏期英語研修報告書

総合管理学部総合管理学科 2 年

波村美月

私は 2023 年の 8 月 17 日から 29 日までの約 2 週間、台湾の桃園市にある開南大学の夏期中国語・英語/台湾文化研修に参加しました。今回の研修に参加して、とても充実した 2 週間を過ごすことができ、かけがえのない思い出を作ることができました。研修を振り返り、授業面と生活面に分けて報告します。

1. 授業面

私は、英語の中・上級クラスに参加しました。今回は英語のクラスは 1 クラスのみでしたが、中国語 A・B クラスに比べ、1 クラスの人数が少なかったように感じました。授業はコミュニケーション中心の授業で、少人数のグループに分かれ、昨日行ったところや食べたものを英語で共有したり、お互いの発音を確認しあったりしました。また、研修の最終日には成果発表会があり、それぞれのクラスで学んだことの成果を披露しました。英語クラスでは、スパイス・ガールズの「stop」の歌とそれに合わせたダンスを披露しました。自由時間などにみんなで集まってダンスの練習をしたり、歌割りを練習したり、クラスみんなで協力して一つの物を作り上げたことは、とてもいい経験になったと思います。

2. 生活面

文化研修や観光などは毎日授業後の午後の時間で行われました。パイナップルケーキ作りや天燈上げ体験、縁結び祈願体験などさまざまな体験に加えて、九份や台北 101、中正紀念堂など有名な観光地にも行くことができました。また、自由行動の際には、グループの担当のチューターさんが行きたいところに連れて行って下さいました。私たちのグループは、台北でショッピングをしたり、新幹線に乗って台中まで遠出したりしました。台中は開南大学のある桃園市から新幹線で大体 2 時間ほどの距離にあるのですが、桃園に比べてとても暑くて、日差しが強く、より台湾っぽさを感じました。

食事は、朝食は各自で、昼食が学校から出る日は英語クラスのクラスメイトと、外で食べる日と夕食は行動班のメンバーと食べるが多かったです。特に夕食は、大学の近くにあるチューターさんのおすすめのお店に連れて行ってもらったり、大学にデリバリーを頼んだりして火鍋や小籠包など色々な台湾料理に挑戦することが出来ました。その中でも 1 番印象に残っているのは、夜市で食べた QQ ボールと呼ばれるさつまいもボールです。外はカリッと中はもちもちの食感と甘いさつまいもの味がとてもおいしくて、また食べたいと思いました。台湾の食事は日本と比較してとても安く、屋台などで食べると、ビーフンのような麺料理が 300 円ほどで食べることが出来ます。また、台湾ではあまり自炊の文化はな

く、3食すべてを外食で賄う人も少なくないと知り、日本との違いに驚きました。

2週間、台湾で過ごしてみて1番感じたのは台湾の人たちはとても親切でフレンドリーな人が多いということです。特に印象に残っているのが、新幹線が駅ではない所で急停止し、どうしたのだろうと不安な気持ちになっていた時に、近くの席に座っていた現地の方が、日本語と英語を織り交ぜながら「もうすぐ動くから大丈夫」ということを伝えてくださったことです。他にも、観光地などで現地の方とすれ違った際に日本語で挨拶をしてくださったり、気さくに話しかけてくださる方が多くて、台湾の方の優しさに触れるたびに台湾が大好きになったし、自分も日本に帰ったら観光客や外国人の方に対して親切でありたいと強く感じました。

今回の研修で台湾の学生はもちろん、日本の他大学の生徒ともたくさん出会うことができ、たくさんの友人ができました。毎日、新しいこと初めての場所で自分の知らない世界を知ることが出来た刺激的な2週間はとても楽しく、この研修に参加して本当によかったと感じています。また学生の中に台湾に行きたいと思います。今回得ることの出来た経験や出会いを大切に、これからも新しいことに挑戦していきたいです。

